



## サンゴ再生 命の息吹 人工繁殖で産卵

沖縄県座間味村の阿嘉島沖で8日夜、卵から人工繁殖して成長したサンゴが初めて産卵した。ライトを当てると、ピンク色の卵(直径約2ミ)が漆黒の海中に浮かび上がった。写真、板山康成撮影。

産卵したのは同島の阿嘉島臨海研究所が繁殖に取り組んでいるエダサンゴの一種「ウスエダミドリイシ」の群体。採取した卵を2004、05年に同研究所内で人工授精させ、幼生がコンクリート製基盤に着床した段階で島の沿岸に移して約30センチの株に育てた。研究所長の大森信・東京海洋大名誉教授は「人工繁殖したサンゴの産卵は世界でも例がない。今回のデータは危機的状況にあるサンゴの再生に生かせる」と話している。